

**第4回調査**
**4月1日現在の就職活動状況**
**1. 4月1日現在の内定状況**

4月1日現在のモニターの内定率は15.0%で、前年同期より2.2ポイント高い数字となった。前年は東日本大震災を受け、大手企業の多くが選考開始を5月以降へと遅らせたので、前年より高い数字が出たのは当然と言える。一昨年(2011年卒)が17.5%だったことを考えると、今年の15.0%という数字はやや低い水準だ。これは、弊社の企業調査の結果などから考えると、就職環境が厳しい(採用減)からではなく、企業が早期の選考を自粛し、まだ内定出しが本格化していないからと考えるのが自然だ。倫理憲章見直し以前に比べ、早期に内定を得る学生が減少していると思われる。

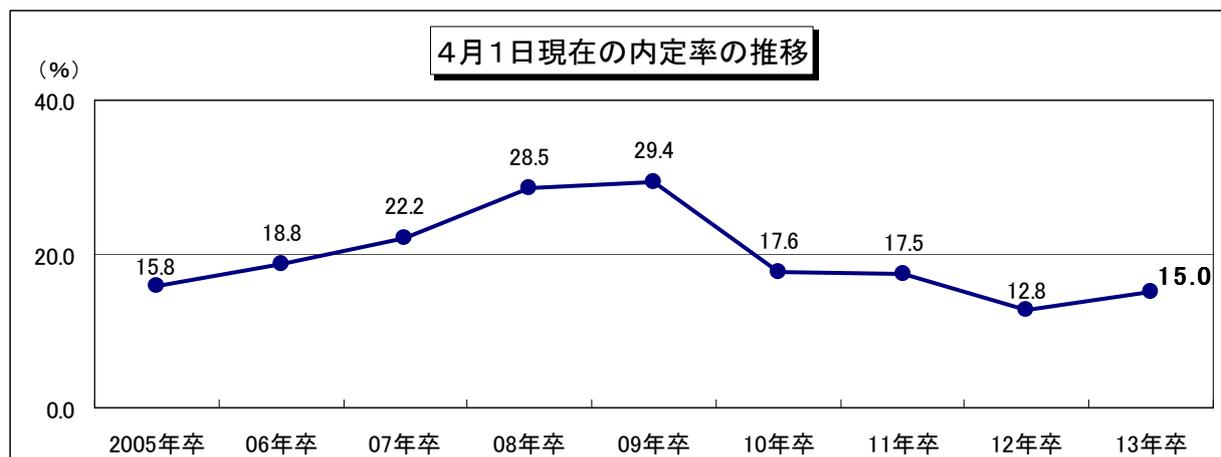
前年同期調査では、内定取得学生のうち就職先を決定し活動を終了させたのは16.0%だったが、今年は20.8%に増えた。前年の場合は、後に本命企業の選考が控えていたため活動継続者が多かったが、今年はそうした特別な事情がないため、内定を得た学生は比較的早い時期に活動を終了させていくと見られる。大手有力企業の多くは4月中旬～下旬が内定出しのピークであり、5月1日現在の内定状況に注目したい。

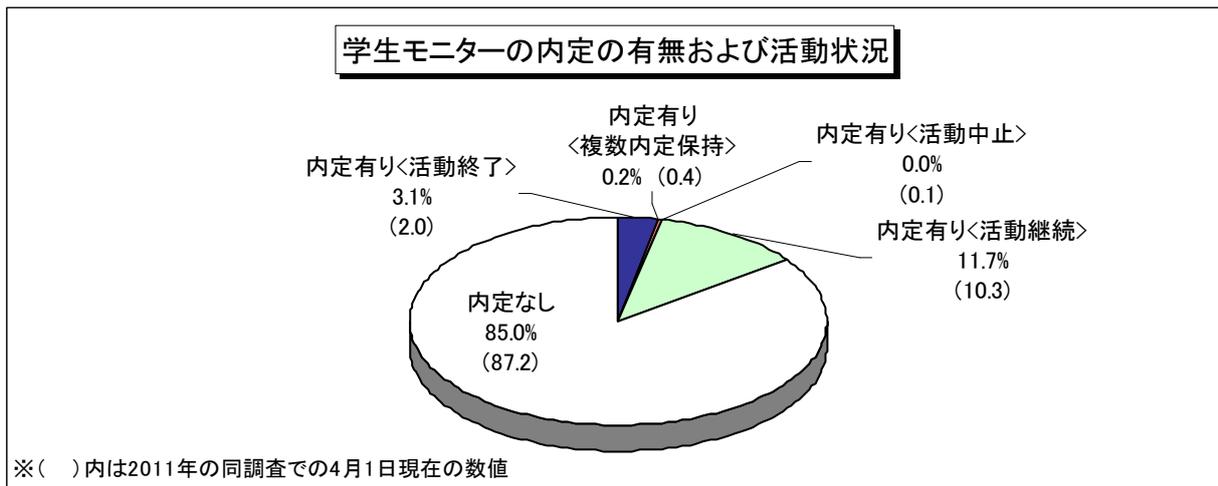
**4月1日現在の内定の状況**

\*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
内定有り		15.0 (12.8)	18.8 (14.7)	14.5 (11.2)	11.8 (13.2)	13.1 (10.3)	15.4 (13.7)	14.8 (12.2)
内定なし		85.0 (87.2)	81.2 (85.3)	85.5 (88.8)	88.2 (86.8)	86.9 (89.7)	84.6 (86.3)	85.2 (87.8)
内定社数(平均/社)		1.3 (1.3)	1.5 (1.4)	1.1 (1.1)	1.4 (1.4)	1.2 (1.2)	1.3 (1.2)	1.3 (1.4)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	20.8 (16.0)	21.5 (11.7)	21.7 (17.6)	14.6 (21.1)	29.4 (16.7)	23.8 (14.7)	18.4 (17.1)
	活動は終了したが複数内定保持	1.6 (2.8)	1.3 (1.7)	0.0 (2.9)	4.9 (2.6)	0.0 (8.3)	0.0 (4.4)	2.9 (1.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.0 (0.7)	0.0 (1.7)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (1.5)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	77.6 (80.6)	77.2 (85.0)	78.3 (79.4)	80.5 (76.3)	70.6 (75.0)	76.3 (79.4)	78.6 (81.6)

※( )内は2011年の同調査での4月1日現在の数値





## 2. 内定を得た業界

4月1日現在で内定を得ている人に、内定企業の属する業界を聞き、上位業界を表にまとめた(全40業界。複数回答あり)。まだサンプル数が少ないため参考値として見る必要があるが、こういった業界が早く動いたかを知る目安になるだろう。震災の影響を受けた2012年卒、それ以前の2011年卒との3カ年を比較すると特徴が掴みやすい。

まず文系は、「銀行」が1位に戻ったのが特徴的だ。前年、銀行の多くは選考を5月にずらしたため、この時期4位だったが、今年は通常のスケジュールで進行し、順調に内定出しが行われたと見られる。2位は依然「情報処理・ソフトウェア」だが、業界全体での採用規模が大きく、早期に選考を行う企業も多いため、毎年早い時期から多くの内定が出ている。

一方理系は、「情報・インターネットサービス」「情報処理・ソフトウェア」などのIT業界と「建設・住宅・不動産」が上位に来ており、前年と大きな順位変動はない。しかし、それぞれの数値が上がっており、これらの業界が率先して内定を出している様子が表れている。

### 内定を得た業界(文系)

(%)

2013年卒		2012年卒		2011年卒	
1	銀行 16.0	1	情報・インターネットサービス 14.9	1	銀行 25.8
2	情報処理・ソフトウェア 11.2	2	情報処理・ソフトウェア 13.8	2	情報処理・ソフトウェア 17.2
3	その他サービス 10.4	3	教育 12.8	3	調査・コンサルタント 11.8
4	コンビニエンス・ストア 9.6	4	銀行 10.6	4	保険 8.6
5	情報・インターネットサービス 8.8	5	建設・住宅・不動産 7.4	5	専門店 7.5
			調査・コンサルタント 7.4		エンターテインメント 7.5

### 内定を得た業界(理系)

(%)

2013年卒		2012年卒		2011年卒	
1	情報・インターネットサービス 25.9	1	情報・インターネットサービス 20.0	1	情報処理・ソフトウェア 24.2
	建設・住宅・不動産 25.9	2	情報処理・ソフトウェア 18.0	2	建設・住宅・不動産 19.7
3	情報処理・ソフトウェア 24.1	3	建設・住宅・不動産 18.0	3	医薬品・医療関連・化粧品 13.6
4	医薬品・医療関連・化粧品 12.1	4	水産・食品 14.0	4	情報・インターネットサービス 10.6
5	人材紹介・人材派遣 6.9	5	調査・コンサルタント 12.0	5	水産・食品 9.1

### 3. 4月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

4月1日現在、一人あたりのエントリー社数は平均で76.7社と、前年より7.7社少ない。就職活動開始当初（1月調査）、前年同期比約3割減でスタートし、3月調査では約1割減まで差が縮まったが、今回さらに縮まることはなかった。選考本格化を目前に、エントリーはやや減速したようだ。ただし、今後のエントリー予定社数が14.1社と、前年の10.1社を4社も上回っており、まだまだ新規企業にアプローチする気持ちは強いと言える。

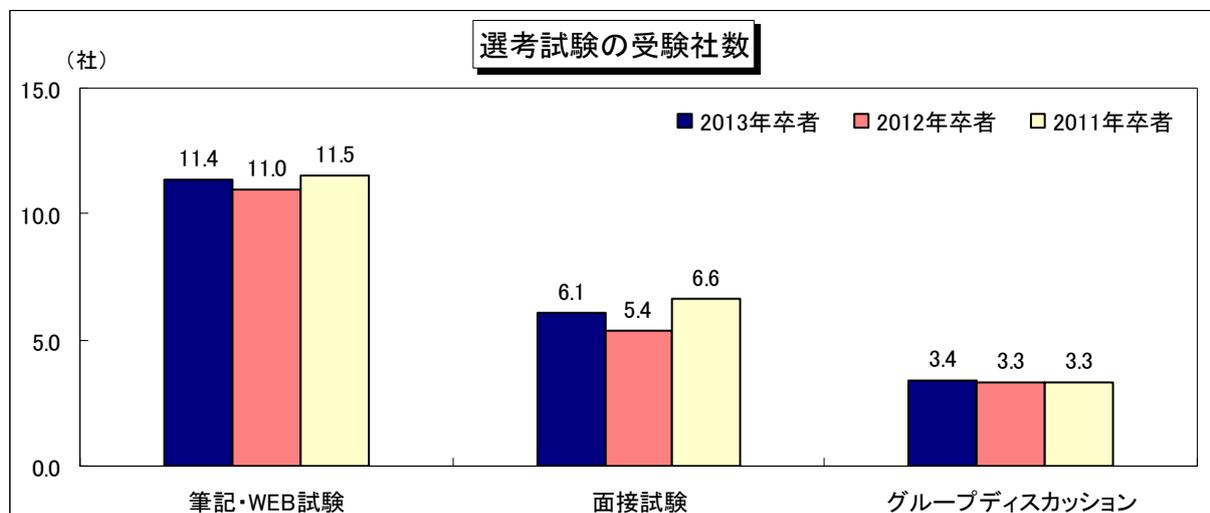
エントリーシート提出社数は17.8社。先月調査の10.8社からは7社増え、前年同期（17.7社）と比べても僅かながら上回った。セミナー参加社数も前年同期とほぼ同数になり、エントリーは少ないものの、全体的な活動量は前年と変わらない水準となった。

選考試験の受験社数もペースが上がり、すべての形式で前年の社数を上回っている。但し、先述のとおり、前年は学生に人気の大手企業の多くが選考を遅らせており、単純に比較することは難しい。震災前の一昨年との比較では、面接試験の社数が約1割少ない。倫理憲章を遵守し、4月上旬に選考が集中した結果、受験社数を絞ったというケースもあったと見られる。

4月1日現在の就職活動の状況

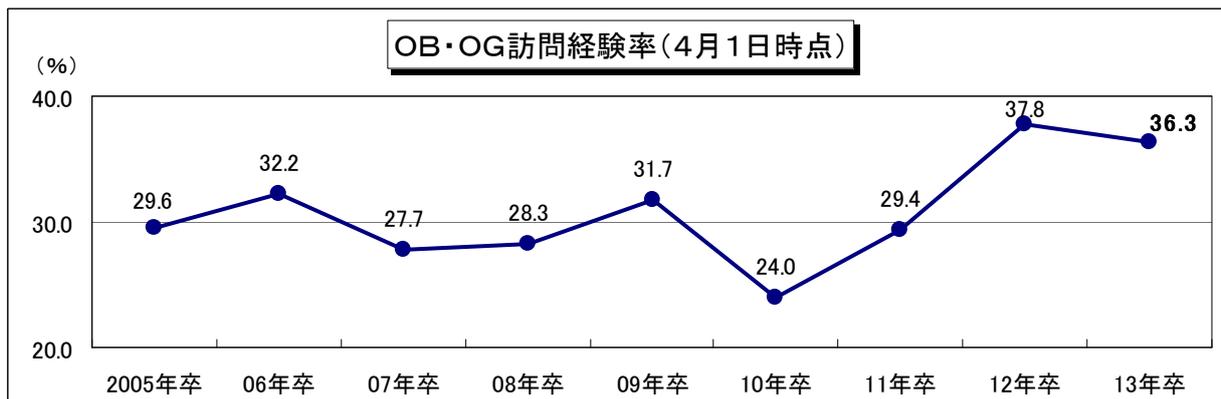
	全 体	今年3月	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
エントリー社数 (社)	76.7	70.9	84.4	83.1	84.4	64.3	70.4	65.8	84.7
今後のエントリー予定社数 (社)	14.1	13.3	10.1	16.2	14.4	12.4	11.3	10.9	15.9
セミナー・説明会参加社数 (社)	49.0	44.0	51.0	55.0	51.8	43.3	38.1	48.1	49.7
企業単独開催のもの (社)	21.1	16.7	22.6	24.5	22.8	17.2	16.5	19.5	22.3
合同開催のもの (社)	16.1	15.9	17.0	17.1	16.6	15.4	13.7	15.2	16.8
学内開催のもの (社)	11.8	11.4	11.4	13.4	12.4	10.7	7.9	13.5	10.5
エントリーシート提出社数 (社)	17.8	10.8	17.7	20.0	18.3	15.8	15.0	17.4	18.1
選考中および受験予定の企業数 (社)	8.6	—	9.6	9.7	9.7	6.9	6.8	8.5	8.6

\*「今後のエントリー予定社数」「選考中および受験予定の企業数」は、就職活動継続者のみ回答



#### 4. OB・OG 訪問の状況

現時点で就職活動の一環として自主的にOB・OG訪問をした人は36.3%。OB・OG訪問をする学生はここ数年3割前後で推移してきたが、前年調査では、震災後にセミナーや選考試験が延期されたことで生じた時間をOB・OG訪問に充てた学生が出るなどし、一気に経験率が上がっていた。今年はそのをやや下回るものの、高水準と言える。ただ、一人あたりの平均訪問人数は4.0人で、年々減ってきている。自主的に訪問をしなくとも、企業側がOB・OG懇談会や社員質問会などを頻繁に開催するため、優先度が下がっているのだろう。

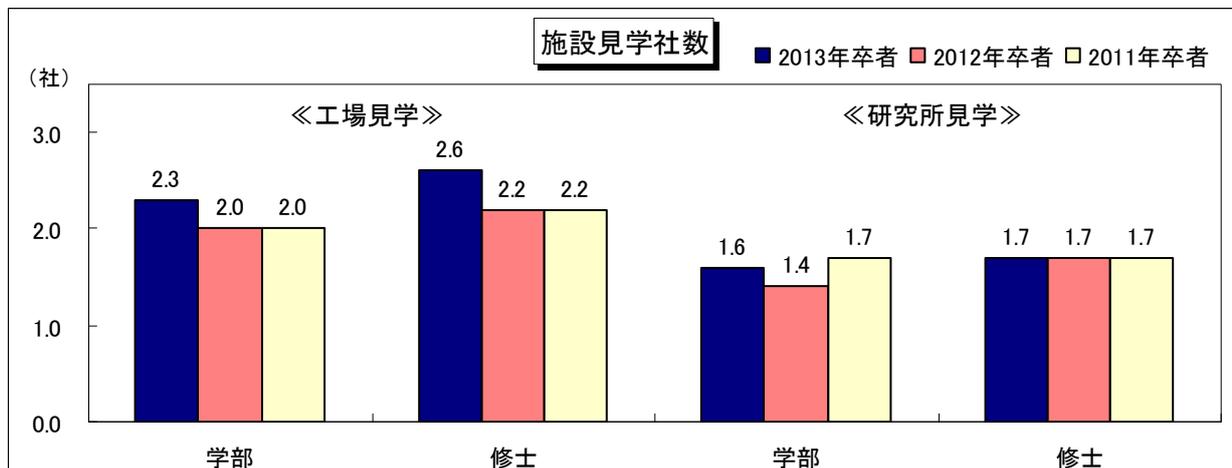


	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
2013年卒	4.0	4.8	3.8	3.1	2.8	4.0	4.0
2012年卒	4.4	4.9	4.7	3.4	3.6	4.3	4.6
2011年卒	4.8	4.5	5.0	5.3	3.9	4.9	4.7

#### 5. 理系学生の会社施設見学への参加状況

理系学生を対象に、「工場見学」「研究所見学」の参加状況を聞いた。工場見学に参加した学生は38.6%。前年同期(39.3%)をやや下回る状況だ。修士学生より学部生のほうが、割合が高い。参加した人の平均社数は、学部生2.3社、修士生2.6社。一方「研究所見学」は、主に研究職志望者が対象となるため、学部生の参加率は11.1%と低く修士生42.1%と大きく差が開く。参加した人の平均社数は、学部生1.6社、修士生1.7社。

	全体	(前年全体)	学部	修士	国公立	私立
工場見学に参加した	38.6	39.3	69.1	48.9	46.8	30.1
研究所見学に参加した	23.0	21.6	11.1	42.1	31.2	14.4



## 6. 志望業界の推移

4月時点の志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらい、同様の方法で調査した1月時点のものと比較した。（上位20業界を抜粋）

文系理系とも1月調査より全体的に数字がなだらかになっており、分散化したことがわかる。就職活動をするうちに業界研究が進み、視野も広がっている。文系は、「銀行」が1位を保っているが、採用数が少なく比較的倍率の高い「マスコミ」「商社（総合）」はそれぞれ4位、5位へと順位を下げた。理系は、1月に6位だった「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が3位に上がった。「情報処理」は、2ページで確認したように、理系学生の内定先業界として3位であり、志望とも合致する。一方で「建設・住宅・不動産」は内定先業界では1位だが、現時点の志望は10位と決して高くはない。

そのような視点で文系を眺めると、志望業界1位の「銀行」は内定先業界でも1位であり合致しているが、内定先業界2位の「情報処理」は、現時点の志望は17位と乖離している。

志望業界の推移（文系）

1月調査		%	4月調査		%
1位	銀行	38.8	1位	銀行	38.4
2位	マスコミ	25.2	2位	運輸・倉庫	17.8
3位	商社(総合)	23.3	3位	保険	17.3
4位	保険	21.7	4位	マスコミ	16.1
5位	水産・食品	18.2	5位	商社(総合)	15.3
6位	運輸・倉庫	17.7	6位	商社(専門)	15.0
7位	ホテル・旅行	14.3	7位	信用金庫・労働金庫・信用組合	14.6
8位	商社(専門)	14.2	8位	水産・食品	13.4
9位	建設・住宅・不動産	13.2	9位	素材・化学	12.1
10位	調査・コンサルタント	12.8	10位	情報・インターネットサービス	11.7
11位	信用金庫・労働金庫・信用組合	12.7	11位	官公庁・団体	11.6
12位	エネルギー	11.8	12位	電子・電機	11.4
13位	電子・電機	11.7	13位	建設・住宅・不動産	10.7
14位	情報・インターネットサービス	11.6		調査・コンサルタント	
15位	医薬品・医療関連・化粧品	11.1	15位	ホテル・旅行	10.4
16位	素材・化学	10.4		エネルギー	
	官公庁・団体		17位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.3
18位	証券・投信・投資顧問	9.1	18位	医薬品・医療関連・化粧品	9.1
19位	通信関連	8.8	19位	通信関連	8.8
20位	印刷・パッケージ	8.7	20位	印刷・パッケージ	8.6

志望業界の推移（理系）

1月調査		%	4月調査		%
1位	素材・化学	27.6	1位	電子・電機	22.5
2位	水産・食品	26.5	2位	素材・化学	21.8
3位	電子・電機	26.3	3位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	21.0
4位	医薬品・医療関連・化粧品	25.5	4位	水産・食品	19.4
5位	情報・インターネットサービス	20.9	5位	情報・インターネットサービス	19.4
6位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	20.3	6位	医薬品・医療関連・化粧品	18.8
7位	機械・プラントエンジニアリング	17.1	7位	機械・プラントエンジニアリング	17.7
8位	自動車・輸送用機器	16.9	8位	精密機器・医療用機器	16.2
9位	精密機器・医療用機器	15.5	9位	自動車・輸送用機器	14.3
10位	建設・住宅・不動産	15.2	10位	建設・住宅・不動産	13.6
11位	エネルギー	12.9	11位	官公庁・団体	12.3
12位	通信関連	12.3	12位	通信関連	11.2
13位	銀行	11.3	13位	エネルギー	10.2
14位	官公庁・団体	10.7	14位	銀行	9.1
15位	調査・コンサルタント	9.8	15位	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	8.6
16位	運輸・倉庫	9.4	16位	運輸・倉庫	8.4
17位	鉄鋼・非鉄・金属製品	9.2	17位	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	8.2
18位	商社(総合)	9.0	18位	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.6
19位	マスコミ	8.3	19位	調査・コンサルタント	7.1
20位	農業・林業・鉱業	7.9	20位	マスコミ	6.9

※上位20業界

### 7. ここまでの就職活動で後悔していること

本格的な選考シーズンを迎えたばかりだが、96.3%と9割以上が「もっとしっかり（たくさん）やっておけばよかった」と後悔していることがあると回答した。文理や男女といった属性での差は見られない。

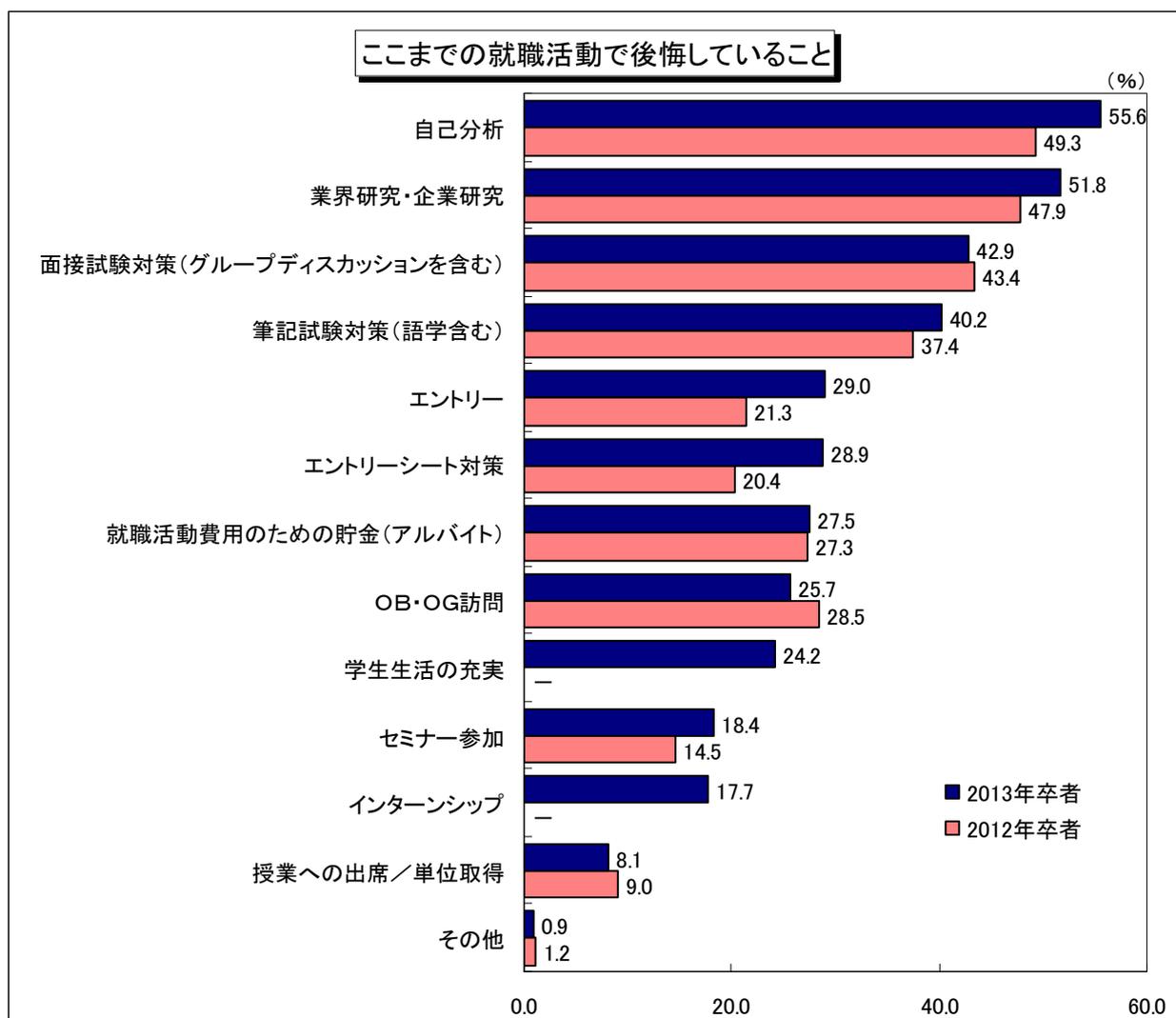
後悔している内容としてあてはまるものをすべて選んでもらったところ、「自己分析」が最も多く、55.6%と過半数が選んだ。他に「業界研究・企業研究」も51.8%と半数を超えている。

全体的に前年より多くの項目を選んでおり、2カ月間の短縮により準備不足のまま本番を迎えざるを得なかった学生が多かったのだと推測できる。

ここまでの就職活動での後悔

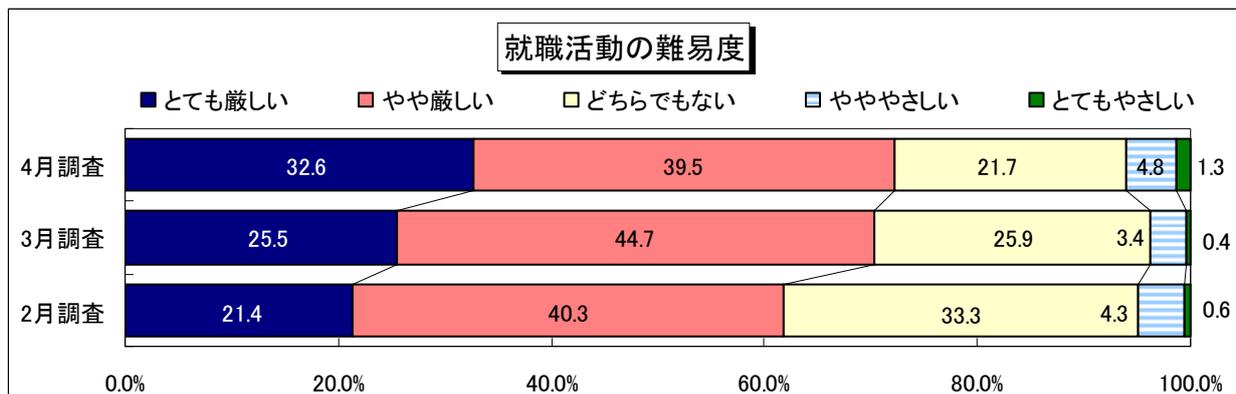
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
後悔していることがある	96.3	91.1	95.7	97.5	96.6	94.6

ここまでの就職活動で後悔していること



### 8. 就職活動の難易度

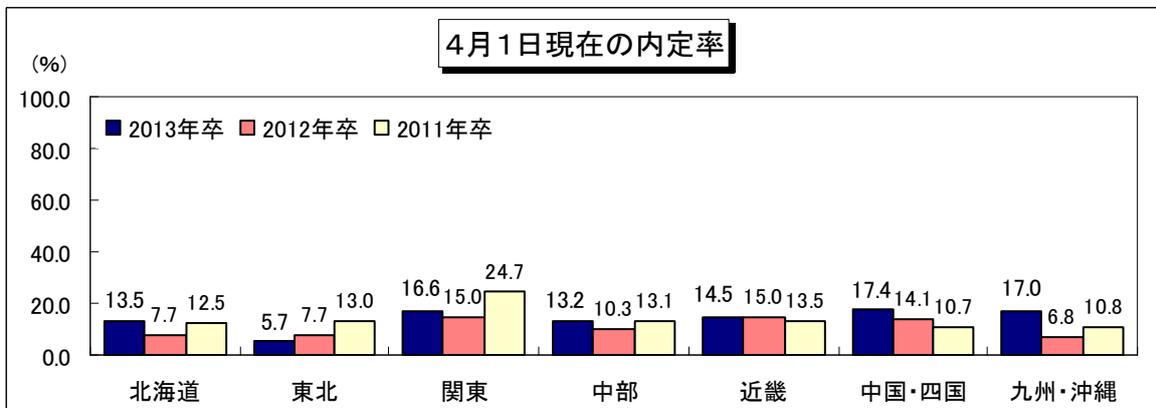
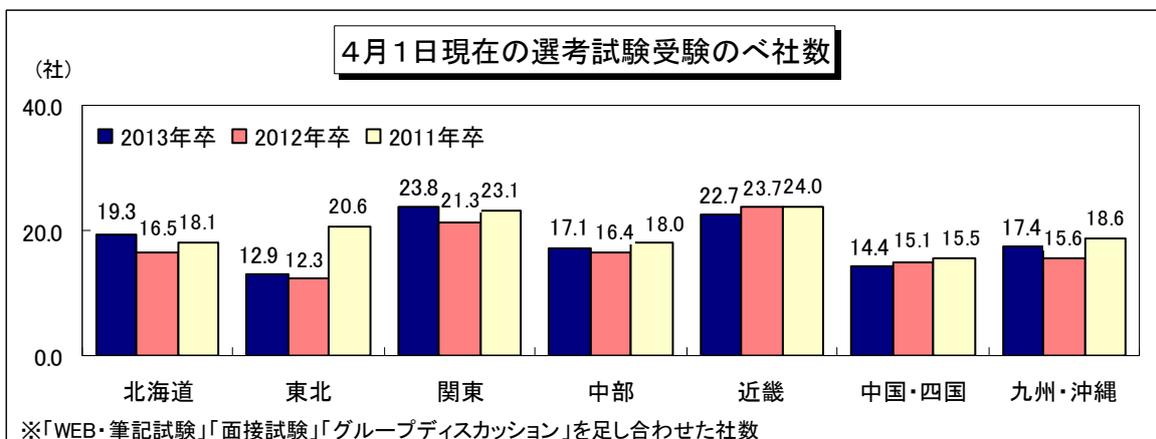
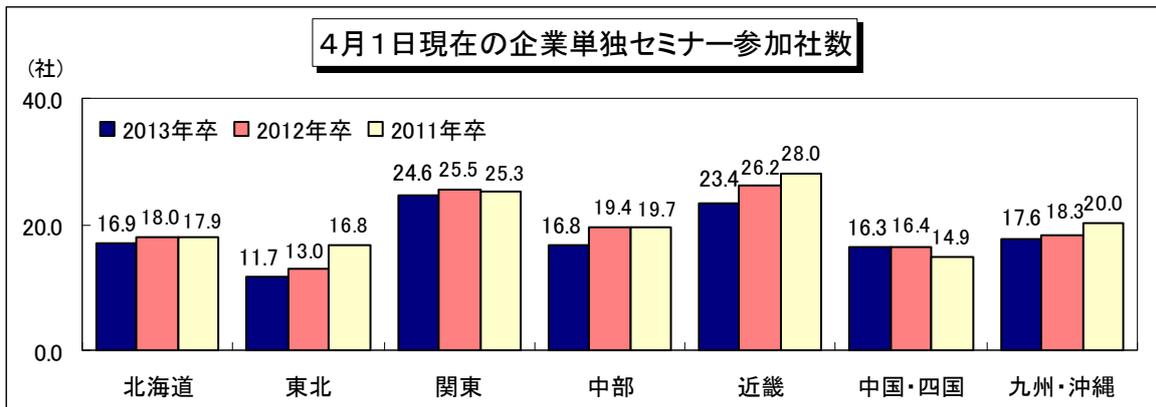
就職活動の感触を3カ月連続で聞いた（「わからない」と回答した人を除いてグラフ化）。「厳しい」と感じる学生が月を追うごとに増加し、「とても厳しい」「やや厳しい」の合計は72.1%。「とても厳しい」が、2月の21.4%から2カ月間で32.6%へと11.2ポイント増えた。活動が進み、エントリーシートや面接試験で不合格になるなどし、厳しさを実感する学生が増えたのだろう。一方で、「やさしい」との回答も先月から増えているが、内定取得学生の多くが選んでいる。



#### ■就職活動に関して思うこと

- 4月1日は倫理憲章遵守企業の面接解禁日ということで、一日に4社もまわったところ、へとへとになり最後の面接はもう自分が何をしゃべっているのか分からなかった。結局そこは通過していたのでよかったものの、スケジュールを入れすぎると困りものだった。 <文系男子>
- 期間が短くなった分企業を知る機会が限られてしまって、最初の印象が正直そのまま志望に繋がってしまい、とても不安です。もっと多くの業界、業種に触れたいと思いました。 <文系女子>
- 学業に支障をきたすことのないよう、早く終わらせようと考えていたが甘かった。早く終わらせている人をみると、早くから準備している。結局、かけなければならない時間は変わらないのだろうと思う。それならば、余裕を生むためにも早くから始めた方がよかった。 <理系男子>
- 面接で話すための自己分析が足りないと思った。もっと早いうちから対策しておくべきだった。 <理系女子>
- 就職活動も佳境に入ってきた感がある。理系なので推薦応募も考えているが、自由応募との兼ね合いや他社選考とのスケジュールリングに気を使わないといけないのが難しい。早く希望の企業から内定が欲しい今日この頃です。 <理系男子>
- 選考が進むにつれ、企業研究の重要性を感じています。しっかり研究し、どんな仕事をしたいかを伝えられた企業の選考は通過することが多いですが、曖昧な理由では想いが伝わらないのだと痛感しました。 <理系男子>
- 上を見てもきりが無いが、妥協はしたくないので精いっぱいできることをするだけだと思う。就活とは縁だとよく言われるが、本当にそうだと感じる。 <文系女子>
- 一つ内定をもらい、かなり楽な気持ちで就職活動ができている。第一志望の企業に行けるよう努力を続けるとともに、内定をもらった企業の社員さんと多く会い理解を深めたい。準備期間が短かった分、選考中や内定をもらってからの企業研究が重要だと思う。 <文系女子>
- これから内定ラッシュが始まると思うので乗り遅れないようにしなければなりません。 <文系男子>
- 思っていた以上にとんとん拍子で進んでおり、逆に最後で失敗しそうで怖い。 <理系女子>
- 企業の選考の不透明さは学生を非常に不安にさせるため、その点で学生への配慮がある企業には好感を持てる。内々定が始める時期ですが、焦らずに自分のペースで就職活動を続けるつもりです。 <文系男子>
- 内定は頂いているが、ここで妥協していいのか悩む自分がある。もっといろんな会社と出合いたい。 <文系男子>

《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	(人)
2013年卒	52	70	512	167	241	86	88	88
2012年卒	52	52	461	165	227	78	88	88
2011年卒	40	54	373	130	171	56	83	83

《調査概要》

調査対象：2013年3月卒業予定の全国の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）  
 回答数：1,216人（文系男子420人、文系女子318人、理系男子348人、理系女子130人）  
 調査方法：インターネット調査法  
 調査期間：2012年4月1日～9日  
 サンプル：日経就職ナビ2013 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。  
 日経就職ナビは株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。